京都府市町村体制づくり支援交付金　自己評価調書

団体名　京田辺市

２．平成２７年度　市町村体制づくり支援交付金事業の個別評価について

支援区分	事業名・実施項目
広域連携事業	ごみ処理施設整備事業

事業着手前	
課題・現状	現在本市がごみ処理に利用している環境衛生センター甘南備園は、昭和61年より稼働しており、現在まで各整備装置の点検整備等を計画的に実施したことにより施設状況は良好に維持されている。 　しかしながら、経年的な老朽化による故障頻度が増加する恐れがあることから、新たなごみ処理施設の建設が必要である。
事業概要	ごみ処理については、国や府も広域処理を推進しているところであることから、本市も周辺の自治体との広域化を検討、協議をした結果、枚方市と広域処理を行うこと、新たなごみ処理施設は京田辺市内に建設することを決定し、平成35年度からの稼働を目指し、枚方市に協議会を組織し事務作業を行う。
期待される事業効果等	ごみ処理施設の建替を2市が連携して取り組むことにより、より高度かつ効率的な施設を整備することができるとともに、建設に係る経費も削減することが出来る。

事業実績			
取組状況	ごみ焼却施設の老朽化に伴う更新を検討し、可燃ごみ広域処理施設整備基本計画を策定した。 今後は、枚方市とともに一部事務組合を設立し、新施設の建築にむけて事業を進める。		
主な実績数値 （出来高数値等）	可燃ごみ広域処理施設整備基本計画を策定した。		
期待される事業効果等 に対する達成状況	ー	（左の理由）	本市が単独で同等のごみ処理施設を建設する場合の全体事業費と比較し、大幅な歳出抑制が出来る見込である。

事業効果									
行革効果の考え方	ごみ処理施設の建替を2市が連携して取り組むことにより、より高度かつ効率的な施設を整備することができるとともに、建設に係る経費も削減することが出来る。								
年度	全体事業費（千円）								
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	6,000,000	本市が単独でごみ処理施設を建設した場合の全体事業費							
本事業の実績額(b)	4,123,400	広域ごみ処理施設を建設した場合の本市の事業費							
効果(a)-(b)	1,876,600								